一般社団法人日本小児看護学会
2023年度　第1回定時社員総会（評議員会）議事録

【日時】2023年6月25日（日）13：00～15：50
【会場】Web会議システム（Zoom）を使用したオンライン開催
理事：荒木暁子，井上由紀子，加藤令子，来生奈巳子，塩飽　仁，二宮啓子，野間口千香穂，
萩原綾子，平林優子，三上千佳子，三輪富士代，渡邊輝子（五十音順）
監事：飯村直子，古谷佳由理
選挙管理委員長：内　正子
評議員出席者：有田直子，石浦光世，市江和子，伊藤久美，上原章江，及川郁子，及川裕子，
大須賀美智，大西文子，小川純子，金泉志保美，鎌田佳奈美，川名るり，
河俣あゆみ，草野淳子，込山洋美，近藤美和子，今野美紀，品川陽子，
杉浦太一，祖父江育子，染谷奈々子，武田淳子，筒井真優美，名古屋祐子，
新家一輝，仁尾かおり，西田志穂，西田みゆき，濱田米紀，日沼千尋，
平田美佳，福地麻貴子，藤田優一，古橋知子，松浦和代，松岡真里，横山由美，
涌水理恵（五十音順）
オブザーバー：植木慎悟
出席社員数：57名（会場51名　委任状6名）
欠席社員数：3名

【開会】

出席者数の確認

司会の野間口副理事長より，13:10に開会が宣言され，出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員60名（2023年6月25日現在）のうち，出席者51名，委任状による出席6名，欠席3名であり，定款第27条2項により評議員の過半数の出席をみたしていることから，社員総会が成立した。なお，議事録作成のために動画録画の承認を確認した。

理事長挨拶

この社員総会は，学会の運営の中でも大変重要な位置づけとなっている。学会の発展のために評議員の先生方にはご忌憚のない意見を賜れるようお願いしたい。

議事録署名人の承認

定款第29条により，社員総会の議事録署名人として，今野美紀評議員，濱田米紀評議員が推薦された。評議員の51名に対して承認のため決議を行い，賛成45名で承認された。

議長選任

定款第26条により，理事長　塩飽　仁氏が議長に任命された。

1．一般社団法人小児看護学会
2022年度理事会報告理事会報告（p．1）

塩飽理事長により資料に基づき報告された。

1）第1回理事会
2022年5月8日（日）Web開催

①2020年度，2021年度年会費未納者150名の強制退会について承認された。
②2021年度決算及び2022年度予算案について報告，承認された。
③研究助成等の電子申請及び会計システムの導入の進捗状況が報告された。
④研究助成採択者の会計報告義務違反について，経緯と予防策の説明がなされた。

2）臨時理事会
2022年5月21日（土）メール審議

①第1回理事会にて承認された2021年度決算に基づき，監事2名による2021年度会計監査を行い臨時理事会で審議し承認となった。

3）第2回理事会
2022年7月8日（日）対面開催

①学会COI運用開始について説明があった。
②入会審査フォーム稼働開始が報告された。
③インボイス制度について，学会担当会計士からも導入を勧められており，登録申請予定であることが報告された。
④新専任査読者についてはメール審議で承認を得ていくことが報告された。
⑤第34回学術集会の開催日，場所，企画委員について承認された。
⑥若手教員研修は年度末3月を目途に実施変更になったことが説明された。
⑦災害時の評議員ネットワークについて，評議員自身の所属が変更となったことに従って，担当する地区も変更になっていることが説明され承認された。

4）第3回理事会
2022年10月23日（日）Web開催

①決算業務の委託および次年度以降の会計および決算業務の委託について検討を重ねることとした。

②2022年9月から2026年8月の学会誌専任査読者は209名（継続162名，新規47名）となることが報告された。

③第33回学術集会の開催会場をパシフィコ横浜に変更したこと，第34回学術集会が2024年7月6日，7日の2日間，大阪国際会議場を会場に，現地とオンデマンドのハイブリッド方式での開催を予定していることが説明され承認された。

④1月に倫理研修会の開催を予定していることが報告された。

⑤「海外の小児看護領域APN（CNS, NP, APN）の教育が目指すもの」のセミナー開催について共有された。

5）第4回理事会
2022年12月18日（日）Web開催

①決算業務委託に関して見積もりを比較検討し，能登屋会計事務所に決算業務委託することが承認された。

②e-Learningの開講がHPアクセス数の増加につながっていることが報告された。

③研究奨励賞候補論文5編より，「入院中の子どものセルフケア能力・親のケア能力向上への看護を測定する尺度の開発（長谷美智子氏ほか）」が研究奨励賞として承認された。

④川出富貴子国際発表助成は1件応募があり，承認された。

⑤日本小児看護学会研究助成には2件の応募があり，選考の結果2件が採択，承認された。

⑥R6年度診療報酬改定要望書に＜プレイルーム（内法30m^2）のプレイルームがある＞の要件の緩和，小児入院医療管理料の「注2」に規定する加算（保育士加算100点/日）の算定施設について，夜間保育士配置加算の新設，＜小児慢性疾病者に対する成人移行支援連携指導料＞の新設，夜間配置を含む急性期看護補助体制加算の対象に小児入院医療管理料1-3の届け出病棟に入院している（15歳未満の）患者を追加，機能強化型訪問看護ステーションの「重症度の高い利用者の受け入れ要件」の拡大の5点を要望したことが報告された。

⑦WANSより会費請求があった場合はその都度検討し，支払う方針で承認となった。第7回WANSカンファレンスでは兵庫県立大学看護学部本田順子先生が発表したことが報告された。

⑧JSCHN「特別支援学校看護師のためのガイドライン改訂版」について，学会として今後改訂の予定があるかとの問い合わせが，文部科学省からあり，「現時点では改訂を検討していない」「学校看護師への研修会は検討されていない」と回答した。

6）第5回理事会
2023年3月20日（日）Web開催

①トルコ・シリア地震への支援として，理事会承認を得て，ユニセフを通じて100万円の募金を行ったことが報告された。

②研究助成3種類について，電子申請システムが開始したことが報告された。

③若手研究者（大学院生）に対する研究費助成制度について承認された。

④若手教員研修「若手教員の語り場」，小児スキルアップ研修「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」の開催結果について報告された。

⑤理事選挙結果が報告された。今後社員総会で諮ったのち，理事承認となる予定であることが確認された。

2．2022年度定時社員総会報告
2022年5月29日Web開催（p．4）

オンラインにより開催し，出席者59名（会場出席者53名，委任状6名），欠席社員数1名であった。

【報告事項】

資料を参照とする。

【審議事項】

①蝦名美智子氏と草場ヒフミ氏が新規名誉会員として推薦され，承認された。

②2023年度第34回学術集会長に，関西医科大学 教授 加藤令子氏が推薦され承認された。

3．会員動向（事務局）報告（p．5）

2022年度末現在，会員数2,239名，正会員数2,224名，名誉会員数11名，賛助会員4名であった。正会員の会費納入率は86%，賛助会員の会費納入率75%であることが報告された。2022年度の正会員入会者数は300名，正会員復会者数は0名，退会者数は223名で，1年間で77名の増員であった。会員の内訳は教育関係1,008名，医療関係会員921数名，その他は306名であった。地区別会員数は資料の通りであった。

4．事業報告（p．6）

各委員長より，2022年度の事業報告について資料に基づき報告された。

1）学術集会報告（p.6）

福岡市立こども病院　三輪富士代氏を大会長とし，7月9日（土）から7月10日（日）に福岡コンベンションセンター福岡国際会議場で開催された。2022年7月14日（木）から8月31

日（水）に，オンデマンド配信された。メインテーマは，「今、目の前のこの子にできること～こどもの尊厳，生活，未来を守る小児看護実践～」とし，会長講演，特別講演2件，シンポジウム2件，教育講演2件，スキルアップセミナー3件，テーマセッション21件，一般講演（口演76題，示説79題），共催セミナー2件，ランチョンセミナー3件であった。参加者総数は1,616名であり，会員912名，非会員594名，学生110名であった。

2）総務委員会報告（p.6）

①理事会5回の開催，社員総会および会員集会運営を行った。総務委員会5回を開催した。

②学会の運営を行った。学会COI規定の作成，学会運営会計業務の見直しおよびシステム構築，会員入会システムおよびマイページの改修，研究助成申請の電子申請システムの構築を行った。会費納入システム，若手研究者への支援を検討した。

③外部団体との連携活動を行った。JANAとの連携，学術団体等の講演，共催を検討した。トルコ，シリア地震への支援を行った。

3）編集委員会報告（p.6）

①学術誌第31巻，第32巻の編集，J-STAGE公開を行った。2021年（1月～12月）の投稿論文は42編で受理31編，取り下げ10編，掲載不可1編であった。2022年（1月～12月）の投稿論文47編，受理21編，取り下げ16編，掲載不可1編，3月15日時点で査読継続中は9編である。2023年は19編の投稿がありすべて査読継続中である。J-STAGEでの論文新規公開は，2022年7月：研究4編，資料　2編，2022年11月：研究6編，実践報告1編　資料6編，2023年3月：研究9編，実践報告2編，資料2編であった。

②学会誌第31巻の発行を行った。研究19編，実践報告2編，資料11編を掲載した。

③J-STAGE公開論文の電子配信を行った。EBSCO社と契約し学術情報データベースEBSCOhostによる論文検索を可能とした。

④学会誌掲載論文転載許諾等を行った。

⑤専任査読者209名の登録を行った。

⑥第32回学術集会テーマセッションを行った。

⑦投稿規定ならびに査読ガイドラインの検討を行った。

4）広報委員会報告（p.7）

①学会ホームページの更新26件を行った。

②ホームページアクセス解析を行った。

③メールマガジンの配信を34件行った。

④ニュースレターVol.60を発行した。

5）学術・研究推進委員会報告（p.7）

①研究奨励賞制度：評議員から研究奨励賞選考委員10名を選出し，第14回（2022年度）日本小児看護学会研究奨励賞選考を行い，理事会承認を得て下記1編が受賞論文に決定した。長谷美智子，櫻井育穂，辻本健，瀧田浩平，添田啓子（2021）：入院中の子どものセルフケア能力・親のケア能力向上への看護を測定する尺度の開発,31,53-60.

研究奨励賞受賞論文および候補論文4編をホームページで公開した。

②研究助成制度：第13回（2023年度）研究助成の募集案内を行い2件の助成を決定した。第14回（2024年度）研究助成について募集案内を行った。研究助成金の円滑な執行に向けて研究助成採択者年間スケジュールを作成し，HPに公開した。

③川出富貴子国際発表助成制度：第7回（2022年度）国際発表助成募集案内を行い，1件の助成を決定した。公募要領を改訂し，申請書の提出方法を電子申請に移行した。

④日本小児看護学会学術集会への支援：第32回，第33回および第34回学術集会の企画，運営の補助を行った。

⑤第32回学術集会において，学術・研究推進委員会のパネル展示を行った。

⑥若手研究者（大学院生）研究費助成制度（案）について検討した。

6）教育委員会報告（p.8）

①小児看護スキルアップ研修の運営：e-learning研修を2コース運営した。2023年2月までで「小児看護基盤コース」受講者719名，「医療依存度の高い子どもと家族の看護」受講者942名の参加が確認された。

「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」集合研修をオンラインにて実施した。

第1回　2022年9月3日（土）：
受講者37名（会員8名　非会員29名）
第2回　2023年1月28日（土）：
受講者25名（会員6名　非会員19名）

②e-learningおよび集合研修受講者の申し込み受付，入金確認等についてMAFに委託し実施した。MAF，VERSION2と連絡調整しながら運営を行った。

③日本小児看護学会第32回学術集会テーマセッション「新型コロナウィルス感染症流行下における新人看護師への小児看護教育の現状と今後の展望」を開催した。

④若手教員に対してニーズ調査を実施し，2023年3月4日（土）オンラインにて「若手教員の語り場」を企画・実施した。3名の大学教員より話題提供いただき，ワールドカフェ方式にてグループセッションを行った。参加者19名（会員16名，非会員3名）であった。

⑤日本小児神経学会主催：2022 年 11 月 3 日(木)第 20 回医療的ケア研修セミナーを共催した。

7）倫理委員会報告（p.9）

①日本小児看護学会第 32 回学術集会での委員会活動の広報・周知

②小児医療・保健・福祉の現場における子どもの権利擁護のための研修会を開催した。
テーマ「子どもの声は届いていますか～子どもにとっての「最善の利益」を考えるために～」
日時：2023 年 1 月 7 日（土）13:00～15:00（Web・LIVE での開催）
応募者は，314 名（学会員 229 名，非学会員 85 名），当日の参加者数は約 270 名前後（最高 275 名）であった。

③「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」の改訂・冊子化，配布を行った。本指針の初版作成より 10 年超が経過したため，基本的な考えは現行通りとし構成に「新生児領域」「在宅・訪問，医療的ケア児」に関連した内容，複雑事例の分析例を 1 例加えた。理事会での承認を得た上で改訂版として冊子化，ホームページに PDF 版を掲載した（2022 年 9 月）。学会員，賛助会員，名誉会員 2,203 名に発送した（2022 年 11 月）。また臨床現場での活用と評価のため，全国の小児病棟を有する 109 の医療施設に発送した（2023 年 3 月）。

④「改訂版 日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」「子どもを対象とする看護研究の倫理指針」「子どものエンド オブ ライフケア指針 子どもと家族がよりよく生きることを支えるために」についての活用状況，その方法，工夫等についてアンケート調査の実施と分析を行った。

8）小児看護政策委員会報告（p．10）

①小児看護に関する政策提言に向けて

1）第 26 回日本看護管理学会学術集会にて，提言内容を説明し，参加者 13 名とディスカッションを行った。

2）第 53 回日本看護学会学術集会公募企画幕張メッセ

・2022 年 9 月 2 日（金）14：00～15：00 札幌コンベンションセンターにて，子どもの療養環境向上のための基本原則について，および小児混合病棟の現状について参加者 6 名とディスカッションを行った。

・2022 年 11 月 8 日（火）14：00～15：00 幕張メッセにて，混合病棟の現状や困難や工夫などについて情報提供後、ディスカッションした。

②小児看護領域における高度実践看護師（APN）の役割の明確化に向けて

第 32 回学術集会でテーマセッション「子どもと家族のニーズの変化から考える小児看護領域の中での高度実践看護」を行った。第 33 回学術集会のテーマセッション応募へ向け企画，抄録を検討。

③健やか親子 21（第 2 次）推進協議会等での参加団体としての活動
健やか親子 21 推進本部総会（オンライン）に出席（2023 年 2 月 16 日 10:00～12:00）した。

④日本医療事故調査支援センターへの協力
医療事故個別調査部会の派遣依頼への対応を行った。2021 年度に派遣依頼があった 2 件については終了。（2016 年から計：9 件） 2023 年度に入り 1 件の派遣依頼があり部会員候補者 1 名を推薦した。

⑤その他

特別支援学校の看護師ガイドライン改訂に関する検討。小児看護政策セミナーの企画検討。こども家庭庁等政策動向の情報収集のため，

シンポジウム「子どもの視点にたった政策とは」（日本財団）の視聴を行った。

9）診療報酬検討委員会報告（p．11）

①令和 6(2024)年度診療報酬改定要望書作成に関して対応した。現時点の要望項目は以下の 5 項目である。

1）成人移行期支援に関すること
2）補助者加算に関すること
3）保育士加算に関すること
4）小児訪問看護に関すること

②他学会の共同提案について打ち合わせなどの調整を進めた。

③診療報酬にかかわる説明会や委員会に参加し活動した。

④診療報酬について，学会員への啓発活動

第 32 回学術集会テーマセッション「意思決定支援は診療報酬につながるか：診療報酬検討委員会」を開催した。100 名以上の参加者があり学会員との交流や情報交換を行った。

⑤診療報酬に関する研究発表

第 32 回学術集会で小児病棟の夜勤に関する調査研究についてポスター発表を 2 題行った。

10）国際交流委員会報告（p．12）

①2023 年 3 月～2024 年に開催される小児看護関連国際カンファレンスの紹介を行った。

②日本小児看護学会第 32 回学術集会テーマセッション「日本に在住されている海外のこどもへのケアの現状」を企画し開催した。4 名の話題提供者より発表いただき，参加者は約 50 名であった。

③国際交流委員会 2022 年度研修会企画「海外の小児看護領域 APN（CNS，NP，DNP）の教育が目指すもの―コンピテンシーに焦点を当てて―」を企画し開催した。参加者 63 名（うち 6 名委員）であった。その後オンデマンド配信を行い，アクセス数は 60 回であった。

④Asia Pacific Paediatric Nursing
⑤世界看護科学学会（WANS）加盟学会・団体代表者会議へ参加した。
⑥第７回世界看護科学学会学術集会へのシンポジストを紹介した。

11）災害対策委員会報告（ｐ．13）

①各地区の災害ネットワークづくり
シミュレーション実施によるネットワークの充実をはかった。2023年２月８日（水）災害ネットワーク平常時シミュレーションを実施した。
②教育推進活動
災害に関する啓発のための研修会を2022年10月29日（土）　札幌市立大学桑園キャンパス体育館で開催した。内容は，演者３名によるリレートーク，福祉避難所模型の展示と解説，体験，意見交換会であった。活発な質疑応答や意見交換が行われ，現状の基本方針では福祉避難所のくくりが大きすぎるため，母性・小児対象，高齢者対象等，小区分を設定する必要があるのではないかとの結論に至った。研修会は，札幌市立大学 KANA える基金の助成を受けて開催した（助成額 272,000 円）。また，株式会社エアウォターから，機器材の無償貸出を受けた。
③第32回学術集会テーマセッション
テーマは「病院内での災害対策の取組み　小児病棟・NICU での災害時の対策や日頃の備えはできていますか？」とし，２名より話題提供いただき意見交換を行った。参加人数59名であった。
④学会ホームページにおける災害関連情報の見直しと更新
学会ホームページ災害関連情報のニーズ調査を実施し，52 名の回答があり，学会からの情報発信は継続してほしいとの希望が多かった。調査結果をもとに内容について見直しを行い，情報を更新した。
⑤災害支援事業助成について
第３回（2022年度）助成金交付を１件行った。
⑥関連団体との連携
四者協小児周産期災害医療対策委員会に参加した。また，災害時小児・周産期リエゾン連絡協議会幹事に当学会より委員長（野間口）が就任することとなった。PEACE（大規模災害対策情報システム）の小児科関連掲示板の ID 付与申請を行った。

12）選挙管理委員会報告（ｐ．14）

①委員会の開催
委員会３回，メール審議１回を開催した。
②理事選挙の準備と実施
選挙に関わる定款施行細則等および選挙スケジュールの確認を行い，それに基づいて選挙を実施した。
１）理事選挙結果報告（2023 年度総会から2025年度総会まで）
一般社団法人日本小児看護学会定款細則第５章第９条に基づいて，評議員57名の中から理事10名を選出することを2022年10月23日の第３回理事会にて確認した。12 月９日に評議員 60 名へ選挙告示を行った。2023 年２月１日に投票依頼および投票用紙を評議員に郵送した。投票締め切りを２月14日（消印有効）とした。
２）開票結果
開票日時：2023年２月18日（土）
開票場所：神戸女子大学ポートアイランドキャンパス
・５名の選挙管理委員で一般社団法人日本小児看護学会定款細則第５章第９条に則り，開票作業を実施した。被選挙人 60 名，投票数 52，投票率は86.7％であった（無効１票）。
・当選人に委員長からメールにて就任依頼を行い，４名から辞退の申し出があった。その後，獲得票数の多い順に依頼し，２月28日に以下の理事10名を選出した。
荒木暁子氏，加藤令子氏，来生奈巳子氏，西田志穂氏，二宮啓子氏，野間口千香穂氏，萩原綾子氏，平田美佳氏，平林優子氏，渡邊輝子氏（五十音順）

<u>質疑応答</u>

＜質問＞

子ども達の療養環境における付き添い者について問題，課題を多く感じている。学会としてのアクション，声明について出す予定はあるのか。
学会としてのお考えを聞きたい。

＜回答＞

・政策委員会だけではない視点からも検討が必要と考えている。従来，提言している小児の療養環境の問題と深く関わるため，政策委員会として調査を検討していた。その際に，NPO 団体が調査結果を公表し，付き添い環境の改善を求める要望書を国に提出した。その結果を受け，厚労省が付き添いの実態調査に対し動きだしている。本件に関して情報収集を続け，学会としての見解を示しアクションを起こせるよう，政策委員会で検討を始めている。
・学会としては，この問題を大きくとらえており，子ども達に付き添われているご家族の生活環境改善の動きを後押しするよう進めていかねばならないと考えている。調査結果を発表した団体，日本看護協会，厚労省と足並みをそろえながら，学会としてのスタンスを明確にして進めていきたい。本学会の評議員，会員にも意見をいただき，学会全体としてアクションを起こしていきたいと考えている。
・長い間続いていた現状の中，どのようなプロセスを踏んで改善に持っていくかは，小児医

療の存続に関わるものと考える。診療報酬委員会では，診療報酬改定要望書に補助者加算，保育士加算について要望を出している。この要望は，看保連が提出した要望書の最上位に位置していた。日本看護協会，看保連，日本小児看護学会等の関連団体で連携し，付き添いのご家族に頼ることなく子どもの療養環境が維持できるよう整える方向で慎重に働きかけたいと考えている。

・コロナ感染拡大で付き添い者の問題はさらに深刻になったと感じている。看護者の意識を変えることと同時に看護者の労働環境をきちんと整えることを並行し検討する必要があると考える。

【審議事項】

1．2023年度から2024年度　理事の選任

質疑応答

質問なし

新理事の承認

新理事の就任に対し決議権のある評議員 51 名により投票を行い，賛成 47 名で可決された。

理事長・副理事長の選出

定款施行細則第 9 条の８に基づき，理事長および副理事長の選出を行った。新理事・監事にて理事長・副理事長選出のための協議を行った。

休憩（理事・新理事の協議）

協議の結果，新理事長に野間口千香穂氏，副理事長に平林優子氏が推薦された。

理事長・副理事長の承認

新理事長，副理事長の就任に対し，決議権のある評議員 51 名により投票を行い，賛成 47 名で可決された。

指名理事の選出

指名理事として，植木慎悟氏，三宅玉恵氏が推薦された。

指名理事の承認

指名理事の就任に対し決議権のある評議員 51 名により投票を行い，賛成 46 名により可決された。

2．2022年度決算報告（p．16）

1）収入の部

2022 年度の会費収入合計は 26,798,000 円，当期収入合計は 58,151,217 円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入合計は 153,010,644 円であった。

2）支出の部

2022 年度の支出合計は 45,955,572 円，収支差額は 12,195,645 円となった。次期繰越収支差額は 107,055,072 円であった。

3）貸借対照表

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

4）正味財産増減計算書

経常増減として経常収益，経常費用，および経常外増減として経常外収益，経常外費用の詳細を示している。

5）財産目録

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。正味財産は、107,913,868 円となっている。

6）非営利性が徹底されていることの確認書

非営利性が徹底されていることについて，塩飽理事長より署名・捺印されたことが報告された。

3．2022年度監査報告（p．22）

飯村監事，古谷監事にて，2023 年 5 月 12 日に 2022 年度決算報告について監査を行い，会計帳簿，証拠書類を照合調査の結果，問題がなかったことが報告された。また，2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと，方法およびその結果について報告された。

質疑応答

質問なし。

2022年度決算および監査結果の承認

2022年度決算および監査に対して，決議権のある評議員 51 名により投票を行い，賛成 48 名で可決された。

4．2023年度事業計画案（p．24）

資料に基づき各委員より報告された。

社員総会：1 回　2023 年 6 月 25 日（日）
会員集会：1 回　2023 年 7 月 15 日（土）
理事会：5 回：第 1 回 2023 年 5 月 14 日（日）第 2 回 2023 年 7 月 14 日（金），第 3 回以降日程未定（次期理事会）である。

第33回学術集会は，以下の通り開催する。
会期：2023年7月15日(土)・16日(日)現地
7月20日（木）～8月30日（日）（予定）オンデマンド配信
開催形式：ハイブリッド開催（現地開催およびオンデマンド配信）
会場：パシフィコ横浜
会長：荒木　暁子（東邦大学看護学部小児看護学研究室　教授）
テーマ：子どもたちの未来を見据え，今やるべきこと

1）総務委員会（P. 24）

①理事会5回，社員総会1回，会員集会1回開催予定である。
②総務委員会の開催
理事会前に年5回開催予定である。
第1回を2023年5月14日（日）に開催し，第2回以降日程未定（次期総務委員会）である。
③学会運営
社員総会および会員集会の準備と実施，予算案と収支決算作成，各委員会との連絡調整，学術集会会長候補者推薦，名誉会員候補者検討，会員・評議員への情報提供，関係機関との交渉・情報提供・後援依頼等への対応を行う。
④外部団体との連携活動
JANAとの連携協力，学術団体等の後援，共催を行う。

2）編集委員会（p. 24）

①学会誌第32巻編集・採択論文J-STAGE公開
②学会誌第32巻の冊子発行
③学会誌掲載論文転載許諾審議等
④J-STAGE公開論文の電子配信
⑤投稿規定・査読ガイドライン等の検討

3）広報委員会（p. 24）

①委員会会議の開催
②ホームページの更新
③メールマガジンの配信
④ニュースレターの発行
Vol.61（5月頃），Vol.62発行（11～12月頃）

4）学術・研究推進委員会（p. 24）

①委員会の開催：年4回
②第15回（2023年度）日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。
③第14回（2024年度）日本小児看護学会研究助成の公募を行い，申請の中から2件まで選考する。また，第15回（2025年度）日本小児看護学会研究助成の広報を行う。
④第8回（2023年度）川出富貴子国際発表助成の公募を行い，申請の中から4件程度選考する。また，第9回（2024年度）川出富貴子国際発表助成の広報を行う。
⑤第33回学術集会および第34回学術集会の企画，準備の補助を行う。
⑥若手研究者（大学院生）に対する研究費助成制度を2024年度から開始できるように準備を行う。

5）教育委員会（p. 25）

①委員会の開催（年6回程度）
②小児看護スキルアップ研修の運営
・「小児看護基盤コース」および「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」e-learningの運営
・「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」集合研修の実施（年2回）
③広報活動フライヤーを作成し病院等に送付
④e-learning講義内容の更新作業を進める
「小児看護基盤コース」「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」それぞれワーキング・グループを立ち上げ，メンバー選定・依頼を行う。
③若手教員語り場第2弾の実施
④日本小児神経学会主催「第21回医療的ケア研修セミナー」共催

6）倫理委員会（p. 25）

①委員会開催：年間6～8回程度（1回/1～2か月）開催予定（オンライン会議活用）
②委員会活動及び作成の指針の活用と周知
・日本小児看護学会第33回学術集会での委員会活動周知のパネル掲示
・2022年度に行った「小児看護における学会作成の倫理指針の活用状況，及び倫理的課題の現状についての調査」の結果分析，報告書作成
③小児看護における現場での倫理的課題解決に向けた医療者間話し合いの促進
・日本小児看護学会第33回学術集会でテーマセッション開催予定
・小児看護の現場での話し合いに関する研修開催（1～2回を予定）
④「日本臓器移植関連学会協議会」への委員会としての参加
⑤倫理委員会への相談への対応

7）小児看護政策委員会（p. 25）

①小児看護に関する政策提言に向けて
・適宜政策に係る提案事項への対応（こども家庭庁に関する情報収集等を含む）。
・小児看護政策セミナーの実施。
②小児看護領域における高度実践看護（APN）の役割の明確化に向けて
・第33回学術集会テーマセッション「子どもとその家族のケアニーズとケアの場の拡がりに応じた高度実践看護のエビデンスの蓄積にむけて(仮)」の実施。

③健やか親子 21（第 2 次）推進協議会等での参加団体としての活動
・健やか親子 21 関連の情報提供・情報収集
・健やか親子 21 推進協議会総会へ出席，等
④日本医療事故調査支援センターへの協力
・医療事故関連の情報提供
・医療事故個別調査部会の派遣依頼への対応
・学会協力者説明会への出席，等

8）診療報酬検討委員会（p．26）

①令和 4 年度診療報酬改定内容について理解を深め，臨床現場への周知に努め，実態の評価などに取り組む。

②令和 6 年度診療報酬改定要望書案にむけて，各関連学会とも協力し情報収集に努め，作成作業の準備を行う。

③診療報酬について，学会員への啓発活動，第 33 回学術集会テーマセッションについて企画準備をすすめる。

④小児病棟の夜勤に関する看護体制の全国実態調査に関する論文投稿を行う。

⑤看護系学会等保険連合会，三保連（外科系学会社会保険連合，内科系学会社会保険委員会連合，看護系学会等社会保険連合）等の診療報酬の検討会に参加し，また介護報酬や診療報酬以外の予算措置についても情報を収集し，広い視野で診療報酬のあり方について，検討する。

9）国際交流委員会（p．26）

①小児看護関連国際カンファレンスの紹介
②2023 年度研修会
テーマ：海外の最新研究にふれよう！
開催日時：2023 年 11 月 3 日（金・祝日）
開催方法：Zoom
③Asia Pacific Paediatric Nursing Association（APPNA）理事会参加
④世界看護科学学会（WANS）加盟学会・団体代表者会議参加

10）災害対策委員会（p．26）

①委員会開催予定:年間 6 回程度開催
②各地区の災害ネットワーク作り：シミュレーションの実施によるネットワークの充実
③第 33 回学術集会テーマセッション
「厳冬期における災害への備えー医療的ケアを必要とする小児と家族のために」開催
④教育推進活動：災害に関する啓発のための研修会の開催
小児周産期医療従事者向け災害医療研修会開催（共催：日本小児救急医学会）
日時：2023 年 10 月 7 日（土）13:30～16:00
場所：杏林大学　井の頭キャンパス
⑤学会ホームページ上の災害関連情報の点検
⑥災害支援に関する情報や委員会活動の広報
⑦災害支援事業助成の公募，選考等
⑧関連団体との連携
四者協小児周産期災害医療対策委員会，災害時小児周産期リエゾン協議会　等

11）選挙管理委員会（p．26）

①委員会の開催（3 回）
②広報活動
第 33 回学術集会において，評議員や理事の役割および選挙のスケジュールについてのポスターを設置する。会員に同様の内容のチラシを配布する。
③次回評議員選挙の準備
選挙のスケジュールや準備について事務局と連携しながら行う。

12）利益相反委員会（p．27）

①該当者から利益相反自己申告書を収集して管理，保管する。
②収集した利益相反自己申告書の利益相反状態を確認する。
③利益相反に関連した疑義に関する連絡を受け付ける。
④利益相反に関する疑義が生じた場合は申告書の内容を確認し，必要であれば委員会を招集して利益相反を判定して対応を行う。
⑤利益相反に関連した会員への啓発活動を行う。

質疑応答

質問なし。

事業計画案についての承認

2023 年度事業計画案に対し，決議権のある評議員 51 名により投票を行い，賛成 48 名で可決された。

5．2023 年度予算案（p．28）

1）収入の部

①会費 22,400,000 円を計上した。
②雑収入 400,000 円を計上した。
③学術集会収入 27,797,000 円を計上した。
④研修会参加費 2,500,000 円を計上した。
当期収入合計は 53,099,000 円を見込み，前期繰越額を含め収入合計は 160,154,072 円を見込んでいる。

2）支出の部

①会員集会費 710,100 円を計上した。
②会議費 2,201,000 円を計上した。
③事業費 43,986,763 円を計上した。
④事務費 8,326,400 円を計上した。
⑤予備費 500,000 円を計上した。
以上，当期支出合計は 55,724,263 円である。

質疑応答

質問なし。

2023年度予算案の承認

2023年度予算案に対し，決議権のある評議員51名により投票を行い，賛成45名で可決された。

6．定款および定款施行細則の改正（p．29）

塩飽理事長より資料に沿って提案された。

1）会費未納により会員資格を喪失した者再入会時の会費納入に伴う定款改正案について，定款第10条に「2　会費を2年間滞納し会員資格を喪失したものが，再入会を希望する場合は，未納分の会費を全額納入しなければならない。」を追加し，改正することが提案された。

2）利益相反委員会設置に伴う定款施行細則改正案について，第11条「②委員会は，理事会で選出された次の委員を持って組織する。ただし，利益相反委員会および選挙管理委員会は除く。」と改正することが提案された。

質疑応答

質問なし。

定款および定款施行細則改正の承認

定款および定款施行細則改正に対し，決議権のある評議員51名により投票を行い，賛成48名で可決された。

7．2025年度 第35回学術集会長の承認

第35回学術集会会長として，塩飽仁氏が理事会から推薦された。

質疑応答

質問なし。

第35回学術集会会長の承認

第35回学術集会会長の承認に対し決議権のある評議員51名により投票を行い，賛成47名で可決された。

【2024年度第34回学術集会会長挨拶】

第34回学術集会会長　関西医科大学　教授　加藤令子氏からご挨拶があった。メインテーマ選定の背景，会場の紹介，大阪市の紹介などがあり，協力及び参加を呼びかけた。

会長：加藤令子
（関西医科大学看護学部・看護学研究科）
日時：2024年7月6日（土）から7日（日）
会場：大阪国際会議場
テーマ：多様化・複雑化する社会の中で生きる“こどもの力”を育む

【閉会】

これをもって，すべての議題を終了し，一般社団法人日本小児看護学会2023年度社員総会を15:50に閉会した。

配布資料

一般社団法人日本小児看護学会　2023年度社員総会（評議員会）資料

この議事録が正確であることを証するため，議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名押印する。

2023年　7月　20日

議長　塩飽　仁　印

議事録署名人　濱田　米紀　印

議事録署名人　今野美紀　印